



# 沖縄子どもの未来県民会議 地域円卓会議

これからの子供の居場所は、どのような分野と連携すると  
より効果的な成果が出るのか？

## 実施報告書

日 時： 2019年11月7日（木）18:30-21:00  
場 所： おきでんふれあいホール（沖縄県那覇市旭町114-4）  
主 催： 沖縄県、沖縄子どもの未来県民会議  
協 力： 公益財団法人みらいファンド沖縄、NPO法人まちなか研究所わくわく

報告書作成  
NPO法人まちなか研究所わくわく  
公益財団法人みらいファンド沖縄

# ACTIVITY REPORT

## 【報告】沖縄子どもの未来県民会議地域円卓会議



- 日時：2019年11月7日（木）18:30-21:00
- 場所：おきでんふれあいホール
- 着席者数：7名（論点提供者、司会、記録者含む）
- 来場者数：23名（福祉・医療機関、企業、行政等）
- 主催：沖縄県、沖縄子どもの未来県民会議
- 協力：公益財団法人みらいファンド沖縄  
NPO法人まちなか研究所わくわく
- お問合せ：NPO法人まちなか研究所わくわく

### 論点提供

**大城 美樹雄 氏**（名桜大学 国際学群 経営情報教育学系 経営専攻 准教授）

### これからの子供の居場所は、どのような分野と連携するとより効果的な成果が出るのか？

沖縄県で実施した平成27年度「子どもの貧困実態調査」において、29.9%の子どもが貧困状態に置かれていることが明らかとなりました。全国に比べて特に深刻な沖縄の子どもの貧困状態に緊急に対応するため、国・県・市町村が連携し、平成28年度から「沖縄子供の貧困緊急対策事業」による子供の居場所の設置が進み、平成31年3月末時点で26市町村139箇所を設置されています。しかし、子供の居場所を利用する子ども達は多様な問題を抱え、食事や生活支援だけでなく、非行や不登校、医療や居住地など総合的な支援が必要となっています。その対策として、常に様々な専門分野の方々と繋がっていることが望ましいと考えられます。今回の地域円卓会議では、子供の居場所のこれまでの成果や課題を踏まえ、どのような連携があれば子ども達により良い支援を行えるのか、関係者や専門の方々、県民の皆さんと一緒に考えていきたいと思えます。

### センターメンバー



大城 美樹雄  
名桜大学 国際学群  
経営情報教育学系  
経営専攻 准教授



大城 喜江子  
浦添市立  
森の子児童センター  
館長



大城 利公  
社会福祉法人  
沖縄県社会福祉協議会  
地域福祉部 主任



濱里 正史  
公益財団法人 沖縄県労働者福祉基金協会  
研究員



呉屋 良信  
医療法人わらべの会  
わんぱくクリニック  
院長

## ➤ 円卓会議に参加いただいた皆さんから

### 事実の提供

- 税金を使用しての子供の居場所（以下、居場所）は、行政も立場上、常に「遊び場」と「学習支援」で位置づけが悩ましい問題である。まずは遊び場から始めて、徐々に学習支援という現行の形になった
- 居場所には、じっと座れない子など、色々な問題を抱えている子がいるため、子ども一人を大学生2名でみないといけないこともある。有償ボランティアの費用が巡回バス代の次にかかっている。その費用がかかりすぎでは無いかと議員に指摘を受けている
- 虫歯がある子どもに「歯が痛いなら歯医者に行ったら良いのに」と言うと、そこで話が終わってしまう。歯医者に連れていくわけにもいかず、どう対応したら良いのかわからず、困っている
- 親に「家に帰って来るな」と言われるなど、家では居心地が悪い子どもに「館長、児童館に泊めて」と言われる。児童館に泊めると法令違反になり、自宅に連れて帰る訳にもいかないので困っている。夜に安心して寝られる場所がないのはつらいと感じている
- 病院の費用も親御さんにとって大きな問題であり、南風原町は県内で最初に「こどもの医療費窓口無料化（現物給付）」を行った。その為、歯科診療では患者が増えた
- 児童館では、お母さんに知られないように児童相談所と連携して子どもに対応することもある
- 生活困窮者自立支援制度（以下、自立支援制度）は、全ての国民がどんなことでも相談できるサービスである。そして、相談者の困りごとに合わせたオーダーメイド型の支援を組み立てることができる制度である
- 自立支援制度による相談内容は様々なケースがあるが、沖縄で最も多い問題は居住セーフティーネットである。沖縄の不動産では連帯保証人と保証会社の両方を付ける必要があるが、困窮世帯は連帯保証人を立てにくく、また、保証会社の審査も通らない。沖縄では家が借りにくい状況である
- 自立支援制度には学習支援の制度もあり、県外では学習支援を行う支援員が、頭の匂いが臭い等から生活習慣の悪さに気づき、親御さんの支援につながることもある
- 子育てに関心が無い親でも、熱を出したり、痙攣をおこしたり、ぜん息で呼吸困難になると病院に子どもを連れてくる。そして、沖縄は夜中に連れてくることが多い。貧困率が高く、共働きが多い沖縄ではしょうがないと思っている

### 視点の提供

- ボランティアの大学生が、居場所に来た子ども達に初めは勉強を教えずに、一緒に遊ぶ事だけを行うと、自然に子ども達から勉強を教えて欲しいと言うようになる。強制して何かをさせるのではなく、自発的に子ども達の中から、やりたいことを待つ忍耐力が必要だと思う
- 中学3年生だから勉強しなさいは、通用しない。やるという気にならないと勉強しないので、促しをしながら、待つという姿勢を取っている
- 療育手帳が貰えるはずなのに貰えていない子がいる。療育手帳を貰うために必要な情報を得られる場があるとよい
- 児童館に来る小学生の中に、気持ちを落ち着かせるための薬を服用している子がいる。本当に薬が必要かどうか見極められる、セカンドオピニオンのような医療との連携が必要だと感じている
- 地域の居場所を地域の方が知らない。地域に関りを持ち、地域に知ってもらい、地域に認めてもらう居場所になって欲しいと思う。それは、どの居場所でも出来ることだと思う
- 子ども医療費助成制度は県内に広がっているが、実際にとっても困っている小、中学生は地域によって対象外になっている。全県的に高校生まで対象を広げて欲しい。しかし、国は医療費抑制のために、現物給付を行う自治体には国民健康保険国庫補助金を削減している。医療側からすると、将来の健康が悪化して医療費がかえって上がってしまうと思う
- 困っていても相談に行かない人、気づいていない人がいるが、まずは相談に来てもらうことが大事。その後、その方と信頼関係を築けるようにするのが相談支援員のスキルである
- 居場所に来る子どもを通して、親に支援制度を伝える仕組みがあると、支援につながりやすいと思う
- 発達障害のある子は、作業療法士や心理士さんが関わることで伸びていくため、もっと気軽に相談しに行くといいと思う

## 評価の提供

- 子ども達は羽を伸ばして、落ち着ける自分の居場所をつくりたいのに、学校でも勉強、居場所でも勉強になると、どこに行っても良いのか分からなくなる
- 居場所の方が子どもの困りごとに気づいた場合、沖縄県労働者福祉基金協会（以下、労福協）では自立支援制度の支援として相談を受けることができる。連携のノウハウは蓄積されていないが、制度設計としては連携しやすい制度である

## 事例の提供

- 母子生活支援施設の浦和寮では、お母さんが入院する時に夜間も子どもを見ることができる。このような、辛い所に手が届くような支援があると助かると思う
- 困りごとがあっても、なかなか自ら相談に来ないが、居場所を通じて保護者と会い、「困っているなら 5～6 万円を支援してもらえぬ制度がある」とメリットを伝えたことで、相談に来たケースがある
- 他県のファミリーサポートセンターでは医師から研修を受けていて、なかなか仕事を休めない親御さんから、具合の悪いお子さんを預かり、病院に連れていったり、病児保育に預けたりしている。しかし、沖縄県内のファミリーサポートセンターでは、ほとんど行われていない

## ➤ 今後のアプローチの方向性（提案）

- 1) 子供の居場所を通して、医療を始めとした専門分野による支援につなげていくためには、子どもの貧困対策に関する事業だけではなく、生活困窮者自立支援制度等の従来の施策にも接合していくことが重要。専門機関と地域とつなぐ役割としては、社会福祉協議会を枠組みにいれ、切れ目無い支援の実現を目指すべき。特に医療サービスは大きなテーマとなるため、単体テーマとして深めていくべき
- 2) 居場所に通う子どものバックに見える世帯の困りごとをキャッチし、専門的な支援につなぐ機能も今後の居場所には必要と考えるべき

## ■参加者によるサブセッション

### これからの子供の居場所は、 どのような分野と連携するとより効果的な成果が出るのか？

(参加者記載の原文をそのまま記載している為、事実と異なることがあります。グループ毎に①、②・・・と記載)

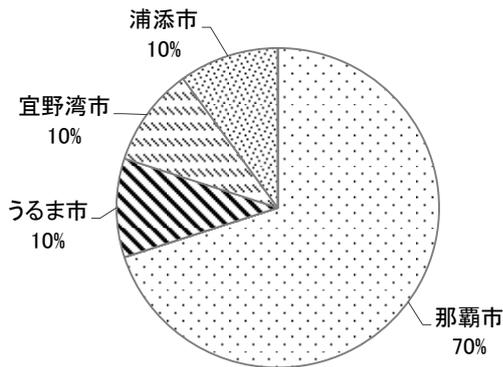
- ① ・ 議員さんへの学習会
  - ・ 認知度と個人の尊厳のジレンマで地域の理解が得られない。
  - ・ 利用者のコミュニケーション能力を伸ばす。
- ② ・ ネットが居場所となっている。
  - ・ ネットの世界が自分を認める。
  - ・ 依存している。
  - ・ コントロールされている問題
  - ・ ナハ市の居場所はボランティアが多い。
- ③ ・ 民間企業（予算、人材確保）
  - ・ 食品ロスが生じる場所。
  - ・ 歯のケア、研修
  - ・ 経営者団体
- ④ (子供の貧困＝子供の権利のはく脱)  
「全ての大人の責任」
  - ・ 多様なケースに対応できる連携
  - ・ 情報の共有
  - ・ 場面の共有
  - ・ 責任の共有
- ⑤ 1.市議会議員
  - 2.教会&放課後児童クラブ→居場所
  - 3.小学校教諭
- ⑥ ・ 子どもは地域コミュニティで育つべき!!  
→居場所づくり（誰でも来てもいいよ）
  - ・ 内閣府予算を足がかりにして
  - 【ネウボラ】【給食費】
- ⑦ ・ 糸満→研修をうけて行っている
  - ・ 貧困の子どもの実態がわからない
  - ・ 見た目ではわからない 服装
  - ・ 社会をシャットアウトしたい人が多い
  - ・ 今日の研修で接することでわからない
  - ・ (虹の森)大道小 松川小  
人数が増えてきた 37人 土曜日 50人  
子どもが居心地の良さを友達に声をかけ
  - ・ 運営→声かけし食べ物寄付はしていただいている
  - ・ 学校との連携が難しい
  - ・ あれこれ子どもに聞きとりすることができない

# 沖縄子どもの未来県民会議地域円卓会議 参加者アンケート集計

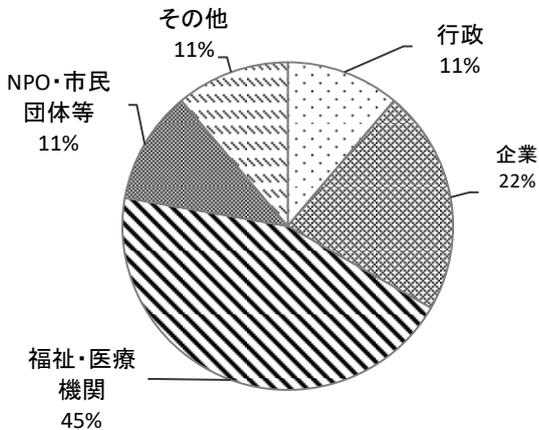
## ◆概要

- ・日時：2019年11月7日（木）18:30-21:00
- ・場所：おきでんふれあいホール
- ・着席者：7名（論点提供者、司会、記録者含む）
- ・参加者：23名（アンケート回収10名、回収率43%）

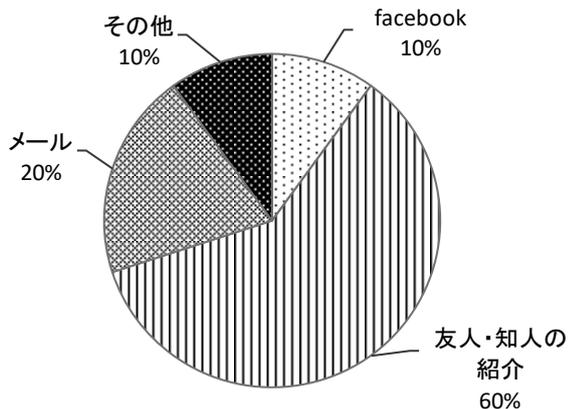
## 1. どちらから？



## 2. 所属



## 3. 円卓会議はどのように知ったか



## 4. 満足度

平均：4.1（5点中）

| 5.満足 | 4.概ね満足 | 3.普通 | 2.あまり満足していない | 1.不満足 |
|------|--------|------|--------------|-------|
| 4名   | 4名     | 1名   | 1名           | 0名    |

## 5. 満足度の理由

### (5. 満足)

- ・ 沖大での円卓会議に参加したのですが、今回、医療や母子支援、沖労福協の話を伺い、前回とは違った視点での内容を聞け、大変勉強になりました。課題が多くある中で、今回の話を頭の中に入れながら、実現へと向かえるよう支援を行っていきたいです。お疲れ様でした。
- ・ ネットの居場所や、今後増えていくだろう事例を知れたこと。また、居場所として困っている方にどう手助けできるか、そのための制度やアプローチの方法を考える機会になった
- ・ 他職種や行政機関の意見が聞けた。

### (4. 概ね満足)

- ・ 様々な角度からの意見を聞くことができた。
- ・ 子どもの居場所の関係者からの多岐にわたる話をきくことができ、感謝です。
- ・ もっと、どのような支援があるのか知りたかった。（子どもの居場所が窓口になって貧困世帯に知らせる事ができるため）
- ・ 円卓会議の実例を知ることができた。

### (3. 普通)

- ・ まず居場所の整理（専門性、地域コミュニティ）がされていなかったもので、視点や目的がそろわなかったバラバラ。行政も入った方がいい。（支援員のコーディネーターのことが抜けていた）

### (2. あまり満足していない)

- ・ 二年前なら、「あ～！そう！」と感じたが、今になってまだそれ！？って思います。タイム

リミットが迫る中でこの議論では不安です。  
なんかみなさん本当ですか？本気ですか？  
居場所、本当にどうしていきましょう？

## 6. 円卓会議で印象に残ったこと

- ・ 発達障害と貧困の関係性
- ・ つながりをもつこと、一人への当事者意識をどう喚起していくか、さらに考え業務にいかしていきたいと思いました。
- ・ 予算ありき、寄付金ありきでの議論が多いと感じた。
- ・ 発達障害児の対応について、勉強になった。
- ・ 居場所×困窮事業は使えそうです！調べてみます。
- ・ 人生は居場所作り。

(写真) 会場の様子





